

ハトムギ有望品種「あきしずく」および「九州3号」の選定と栽培法

ハトムギの選定に関して

葉枯病の発生が激しいと写真1のように激しく枯れ上がり収量やリットル重が激減します。また、葉枯病菌は越冬し翌年の発生が多くなりますので**葉枯病に強く収量性がある品種を選定しました。**

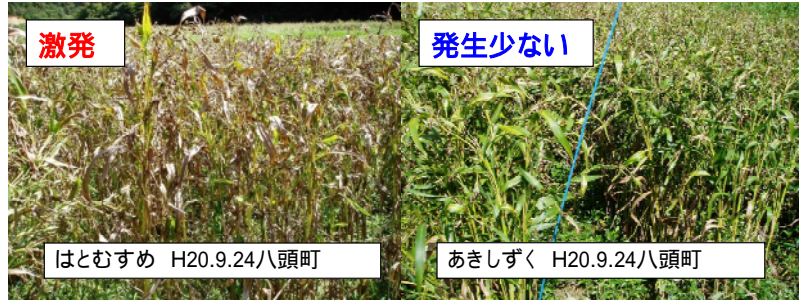


写真1. 中山間地における「はとむすめ」と「あきしずく」の葉枯病発生程度

表1. 「あきしずく」および「九州3号」の特性概要

特性の概要

はとむすめに比較して

出穂期: あきしずく: 5日遅い
九州3号: 3日遅い

成熟期: あきしずく: 同熟
九州3号: 4日遅い

草丈: あきしずく: 短稈、九州3: 長稈

茎数: あきしずく: 並、九州3号: やや多

鞘状苞数: 両品種とも多

着粒層: 両品種ともやや狭い

コンバイン収穫適性優れる

穀実重: あきしずく: 並

九州3号: やや多収

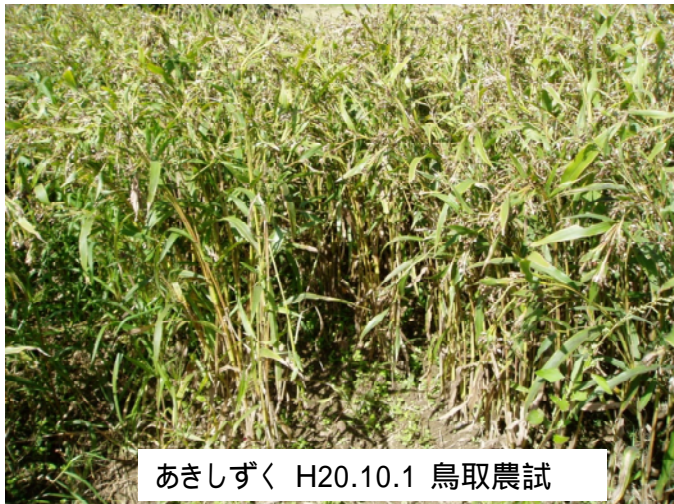
葉枯病

あきしずく: 強(不稔粒少)

九州3号: 極めて強(不稔粒極少)

特性	あきしずく	九州3号	はとむすめ
出穂期 (月・日)	7.27	7.28	7.22
成熟期 (日)	9.18	9.23	9.19
登熟日数 (日)	53	57	59
草丈 (cm)	149	172	172
茎数 (/株)	6.5	7.6	6.4
稈径 (mm)	9.8	9.9	9.6
鞘状苞数 (/株)	163	167	131
着粒層 (cm)	74.8	77.6	87.8
全重 (kg/a)	91	122	96
穀実重	39.3	42.6	39.2
同上比率 (%)	100	109	100
百粒重 (g)	10.4	9.5	10.2
不稔粒 (重量%)	10.7	8.0	17.9
リットル重 (g)	485	487	509
葉枯病 (0-5)	2.6	2.6	4.0
倒伏	0.0	0.0	0.0

注1) 調査年次: 平成20,21年、調査場所: 鳥取農試、播種: 播種日: 5月19日(平成20年)、5月18日(平成21年)
播種法: 点播(5粒2本仕立(平成20年)3粒(平成21年))
注2) 施肥法: 分施、施用量(kg/a); N:P₂O₅:K₂O=1.32:1.24:1.62
窒素施用時期および量(kg/a)は基肥:伸長期(6/下):出穂期(7/下):登熟初期(8/下)=0.36:0.16:0.64:0.16
注3) 全重・穀実重・百粒重・リットル重は水分15%換算不稔粒は穀実の内数で軽微な枯症状のある粒も分別
注4) リットル重はブラウエル穀粒計およびケット社製穀類水分計PM-600で計測
注5) 葉枯病および倒伏程度は0(無)~5(甚)



あきしずく H20.10.1 鳥取農試



九州3号 H20.10.1 鳥取農試

写真2. 「あきしずく」および「九州3号」の成熟期以降の立毛の様子

「あきしずく」は6月第3半旬までは種が可能ですが、「九州3号」は晩播で低収となるため5月下旬までは種とします。

表2. 有望品種・系統における2作期の成熟期の生育と収量について

品種・系統	作期 (播種日) (月.日)	出穂期	成熟期	登熟日数	草丈	茎数	鞘状苞数	全重	穀実重	百粒重	不稔粒	リットル重	葉枯病	倒伏程度
		(月.日)	(月.日)	(日)	(cm)	(/株)	(kg/a)	(g)	(重量%)	(g)	発生程度(0-5)			
あきしずく	5.23	7.29	9.18	51 ns	168 ns	7.9 **	148 ns	87 ns	35.7 ns	11.1 ns	12.7 *	474 *	3.5 *	0.0
	6.13	8.15	10.05	51	169	6.0	157	94	35.3	10.3	23.6	457	4.3	0.0
九州3号	5.23	8.03	9.21	49 **	173 ns	7.3 ns	118 ns	95 *	31.9 *	10.3 **	11.9 ns	459 ns	3.1 ns	0.0
	6.13	8.15	10.10	56	168	6.7	140	75	25.4	9.7	15.6	440	3.5	0.0
品種間差		-	-	ns	ns	ns	*	ns	**	**	ns	*	*	-

注1) 調査年次:平成21年、調査場所:八頭町山上、施肥;リニアで施肥量はNkg/10aで16.5kg

注2) 播種法;条播、播種量:4.7kg/10a

注3) リットル重はケット社製穀類水分計PM-600で計測

注4) LSD法により**:1%有意、*:5%有意、ns:有意差無し

窒素施肥はリニア140日タイプの基肥全量施肥により分施に比べて、穀実の窒素吸収量が多く同等以上の収量を得られます。施肥量は窒素で13.2~16.5kg/10aとします。

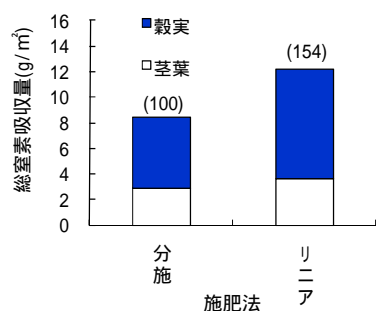


図1. 「あきしずく」における施肥法と成熟期窒素吸収量

注1) 調査年次:平成20,21年、調査場所:鳥取農試

注2) ()内の数値は各品種の分施を100とした場合の穀実窒素吸収量の割合

表3. 施肥法による有望品種・系統の成熟期の生育と収量について

品種・系統	施肥法	草丈	茎数	鞘状苞数	全重	穀実重	同左比率	百粒重	リットル重	倒伏
		(cm)	(/株)	(kg/a)	(%)	(g)	(0-5)			
あきしずく	分施	149	6.5	163	91	39.3	100	10.4	485	0.0
	リニア	163	7.2	161	120	50.1	128	10.3	494	0.0
九州3号	分施	199	8.1	149	132	40.2	100	9.6	469	0.0
	リニア	193	7.2	144	129	47.9	119	10.3	495	0.0

注1) 調査年次:あきしずく:平成20・21年平均、九州3号:平成21年、調査場所:鳥取農試

注2) 施肥法:分施:表1と同様、リニア:施用量は分施と同様で溶出期間140日

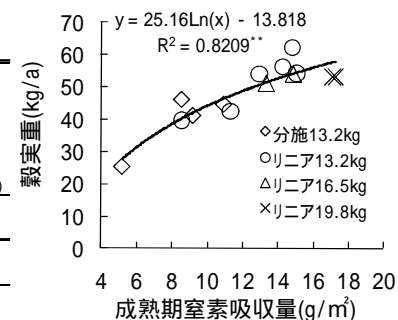


図2. 「あきしずく」における成熟期窒素吸収量と穀実重との関係

注) 調査年次:平成20,21年、試験場所:鳥取農試

1. 初期生育の確保、作付ほ場の拡大および作業性から、栽植様式は転換畑の直播方式が実用的であり、は種後1月程度は乾田、その後は収量の確保のため1週間に1回程度畝間に充分灌水することが望ましい。
2. 「あきしずく」および「九州3号」は標高110m以上では試験を行っていない。
3. 現時点で品種登録のある「あきしずく」を基幹品種とし、連作を行う場合は葉枯病に極めて強い「九州3号」を作付する。

問い合わせ先 : 鳥取県農業試験場 作物研究室

電話 : 0857-53-0721

本書から転載複製する場合には必ず上記に許可を受けて下さい。